

第460号  
2016年3月15日  
(毎月15日発行)

1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)

# JR貨物労組

日本貨物鉄道労働組合  
〒114-0013  
東京都北区東田端1-16  
JR貨物田端信号場5F  
☎NTT 03-3819-7071  
JR 054-2901~3  
発行人 相澤 武志  
編集人 藤田 尚輝

## 組合員の努力で3.26ダイヤ改正を安全に移行させよう



北海道新幹線と合流



三線軌条で青函トンネルへ

**安全の徹底を**  
ダイヤ改正は平成28年度末の鉄道事業部の黒字化に向けて、JR貨物の商品価値を高める最後の施策ともいえます。荷主のニーズに合わせた列車体系が構築され、その列車に荷物をいかに積載するかは経営責任です。私たちはこの意思をいかに安全に目的地に届けるかが重要であり、運輸部、営業部、技術部、施設電気部、管理部等に結集するすべての組合員の協力が不可欠となります。全組合員の努力により今ダイヤ改正は無事に移行しました。その際、田書長と村上業務部長が、鎌田青森支部長の案内により、青森線区に引き続き、その後の8050列車にて青函トンネルを通過し、五稜郭支隊を通過しました。その後、8050列車に添乗し、青森線区に帰るとい

**青函職場を激励**  
ダイヤ改正に先立ち、北海道新幹線との共用走行のため、事前から教育や訓練などを受けている、五稜郭支隊と青森線区に激励行動を行いました。

# 不安を感じたら列車を止めよう

## 全国初の新幹線との共用走行開始

まもなく3月26日に平成28年3月ダイヤ改正を迎えます。JR貨物労組組合員の力を結集しすべての職場は安全第一でダイヤ改正を移行させましょう。その際、少しでも不安を感じたり、作業に自信がないときは躊躇することなく列車を止めて安全の確認を行いましょう。

今ダイヤ改正は北海道新幹線開業に伴い一部区間での貨物列車と新幹線の共用走行を開始します。当該区間の組合員だけではなく全国の職場が盤石な体制で取り組んでいます。また、ダイヤ改正では輸送ニーズの高い首都圏〜九州向けの列車の輸送力増強や、トラックドライバー不足による荷物を見込んだ関東〜関西間の速達化などモーダルシフトをより一層推進していくこととしています。

暖冬と言われながら、日によって寒暖の差が激しく、正に気候変動を肌身で感じる今冬でした。また、インフルエンザも猛威を振るう中、組合員の皆さんには、体調管理を十分留意しながら春闘を闘ってほしいと思います。

さて、いま全国をまわっていると、平成一採用のミドルが、組織の中核を担っていることを実感します。その平成のリーダーから、「今の若い人は政治意識が低くて」という話を良く耳にします。私も二十代の頃は、「今の若い人」に負けず劣らず政治には興味がありました。

そんな若かった政治意識の低い「たしるかおる」に対して、「お前も俺も労働者だ。職を失えば直ぐに食物にも困り路頭に迷う。その立場から物を考えれば、評論家みたいに政治が見られなくなる」と粘り強くかわり続けてくれた職場の先輩がいたからこそ今の私があるのです。



春闘の職場議論で賃上げ議論をする事は前提ですが、労働者としての自分は社会的にどういう立場に立っているのか? 立たされているのか? 労働組合とは、歴史的にどのような変遷を辿って現在に至っているのか? 改めて、特に若い組合員と議論してみたいか? 「そんなのいつもやっているよ!」という声が聞こえてきそうです。でも、その事が自覚できた若者は、自ずと自分はだれと対峙すべきなのか分かってくるはず。若者に、現在起きている永田町の政治を政治として語ってもおそらく政治意識は高まらないと思います。職を失うと、一瞬にして路頭に迷う自分達。一度戦争が起きれば、真っ先に第一線に送られる立場にいる自分達を、春闘の議論を通して粘り強く後輩達に伝えてほしいと思います。私も、粘り強く共に頑張ります!

激励行動は3月23日、税弾丸往復添乗となりました。田書長と村上業務部長が、鎌田青森支部長の案内により、青森線区に引き続き、その後の8050列車にて青函トンネルを通過し、五稜郭支隊を通過しました。その後、8050列車に添乗し、青森線区に帰るとい

上り8050列車 池澤運転士  
下り3039列車 中村運転士



平和を守る! 政治を変える! 社会を創る!  
**参議院選勝利!**  
**未来を切り拓く4・3大集会**  
とき: 4月3日(土) ところ: 大井町・きゅりあん 規模: 1000名

### 会社は職に学ぶべき!

テレビでも言っていたが、よく働くアリだけを集めて、アリの組織を作ってみると、なぜかまた働かないアリが出てくる。何回やっても同じだ。さうだ。みんながみんな、働き者で頑張っている。組織が存続できなくなる。なんとアリの社会でも過労死があつて、よく働くアリは早死にしてしまう。みんながみんな頑張つて過労死してしまつたらその組織はそこで崩壊する。アリも働けば疲れる。過労で働けなくなる。だから働かないアリを「働くアリ」が疲れて働かない状況や、突発的に生まれる仕事、状況の急激な変化に備えて「予備の労働力」として置く組織になつていくよ。会社よ、少しは蟻の社会から学ぶと良い。人に投資もせず、効率化を極めれば優秀な人材がどんどん流失し、組織が崩壊してしまつてを!

### マイ・ターミナル

先日、テレビを見ていた面白くないことをやっていた。働きアリは8割が働いて、2割がサボっている。え、働きアリが8割、サボるアリが2割。働きアリは全員が必死に働いているとばかり思っていた。気がついた後から調べたら、いろいろな説があつた。2割が長く働く蟻で、6割が普通の蟻で、2割が働かない蟻。さうだ。いやいや、8割が働かない蟻という説もあった。解かたこととは、アリの個体は「閾値」を持っていて、その個体が個々バラバラと行動を起すのに必要な刺激に対して行動を起すのに必要な刺激量の限界値のこと。